

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果および考察

大阪狭山市立第七小学校

1. 本年度の学力・学習調査結果の概要について

- ・国語・算数とも、知識を問う問題においては概ね良好な結果でしたが、活用力を問う問題ではやや課題がみられました。
- ・国語では読む能力を問う問題については良好な結果でしたが、書く能力を問う問題に課題がありました。
- ・昨年改善が見られた言語についての知識・理解・技能については、今年も概ね良好な結果でした。特に漢字を書く問題はたいへん良い結果を残しました。
- ・算数では基本的な四則計算を問う問題について概ね良好な結果を示しましたが、平均を取り扱う問題に課題がありました。
- ・友だちの前で発表する児童が少しずつ増えてきました。
- ・難しいことでも挑戦しようとする児童が増えてきました。
- ・読書が好きという児童が増え、読書する時間も平均的に長くなりました。
- ・自分にはいいところがあると思っている児童がまだ少ないです。
- ・テレビを見る時間がまだまだ長い児童が多いです。

2. 各教科における成果と課題について

	成 果	課 題
国語 A 〈主として知識〉	<ul style="list-style-type: none">・漢字の問題では概ね80%以上に児童が正しく読み書きできており、昨年度以上の成果が見られました。・目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読む力を問う問題では、80%以上の児童が正答しており、文脈を読み取る力や整理する力が身につけてきていることがわかりました。	<ul style="list-style-type: none">・お礼の気持ちを伝えるために、どのような内容が書かれているか問われる問題では、「特に心に残っていることは・・・」という文のみで書き手の気持ちを捉えてしまっているようであり、文全体から筆者の要旨を捉える力に課題がありました。・俳句の情景を問われる問題では、与えられた資料から様子をイメージする力に課題がありました。

<p style="text-align: center;">国語 B 〈主として活用〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読む能力を問う問題では、昨年に引き続き全ての問題で良好な結果でした。特に登場人物の相互関係や心情、場面の描写について問われる問題は80%以上の正答がありました。 ・ 条件付きの書く問題では、無回答が非常に少なく70%~80%の児童が3つの条件の内2つを意識して書けていたことがわかりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる問題において、無回答率が高く、自分の思いや考えをまとめる力に課題があることがわかりました。 ・ 条件付きの書く問題において、誤答が多かった項目は「ふさわしい言葉遣いで書けている」や「ふさわしい表現で書けている」であり、文章表現に課題があることがわかりました。
<p style="text-align: center;">算数 A 〈主として知識〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な四則計算においては80%~90%の児童が理解しており、全国の平均値を大きく上回りました。 ・ 図形領域においての面と面の位置関係については、90%以上の児童が理解していました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料から二次元表に分類する問題において、与えられた資料から表を作成することができていましたが、表から数量関係を捉える力に課題がありました。
<p style="text-align: center;">算数 B 〈主として活用〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数と計算の領域で、示された資料から必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する力は全国の平均値を大きく上回りました。また、同領域において資料文章を読み取り、必要な事柄のみを活用し解答する力は、全国の平均値を大きく上回りました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平均値を求める問題において、特定条件が付加された時の立式に課題があることがわかりました。また、仮の平均の考えを活用し、測定値の平均を求める問題においても、資料を十分に活用しきれていないことがわかりました。

3. 本校の学力向上に関する現在の取組みについて

テーマ 「子どもが主体的に取り組む授業をめざして
～話し合い活動を通して～」

授業改革



教師主導の講義型授業でなく、児童どうしが学びあう協働型の授業を全職員で研究しています。年6回の研究授業を行っています。

(写真：研究授業6年国語
「おたがいの文章を推敲しあう」)



学習支援

児童が授業に集中しやすい教室環境や、授業規律を整備します。例えば教室掲示をできるだけシンプルにしたり、授業を構造化し、1時間の授業の流れ（めあてから始まりまとめ、振り返りで終わる）を明示したり、板書（黒板の使い方）を工夫して考え方の順序、学習の中心がよくわかるようにしています。またiPadやTVなどを使って、見てわかる教材を工夫しています。（視覚支援）



(写真：工夫された板書)

図書館活動



(写真：ビブリオバトル【書評合戦】の授業)

読書する時間を少しでも確保するために、週3回の朝読書をしています。また、冊数の目標を設定し、読書ノートをつけて50冊達成で表彰しています。

図書委員会やキッズサポーターのみなさんによる本の読み聞かせも行っています。

外部人材の活用

学校外部よりゲストティーチャーをお招きして、児童の学習支援をお願いしています。

より専門的なお話をしていただいたり、体験活動をさせていただいたりすることで、児童の学習に対する関心・意欲を高めています。



(写真：4年理科「星の話」



3年算数「そろばん」)

4. 今後の取組みの方向性について

授業づくり

- ・常に授業を振り返り、授業改革（グループ活動を積極的に行い、話し合い活動を活発にする）を行っていきます。
- ・落ち着いて学習に集中できるよう、学習環境を整備していきます。
- ・チャイム着席や学習姿勢を意識させるなど、授業規律を大切にしていきます。

集団づくり

- ・ポカポカチャレンジやなかよし班活動などを通して、自尊感情、自己有用感を高め、共に伸びる仲間づくりを進めていきます。
- ・一人ひとりの児童と積極的にコミュニケーションをとり、児童の困り感を見逃さず、よりそった生活指導を行っていきます。

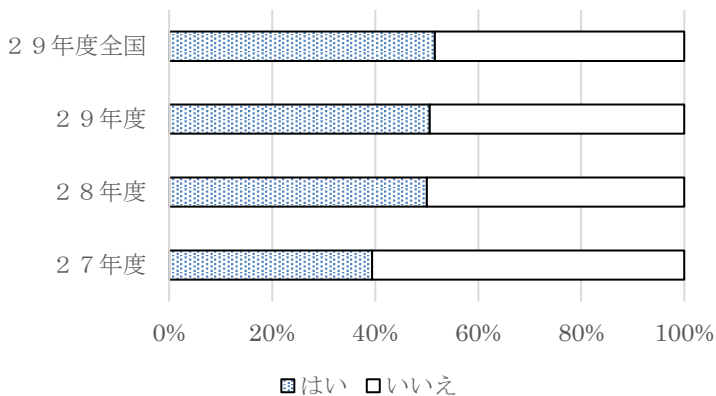
体力づくり

- ・生活習慣の定期的な見直しをし、アウトメディアチャレンジなどとおして、ゲームやスマホの遊び方について啓発を行っていきます。
- ・早寝・早起き・朝ごはんの啓発を進めます。今年は給食の残食を減らす取り組み（パクパクチャレンジ）も行っています。

5. 児童質問紙調査の結果の概要

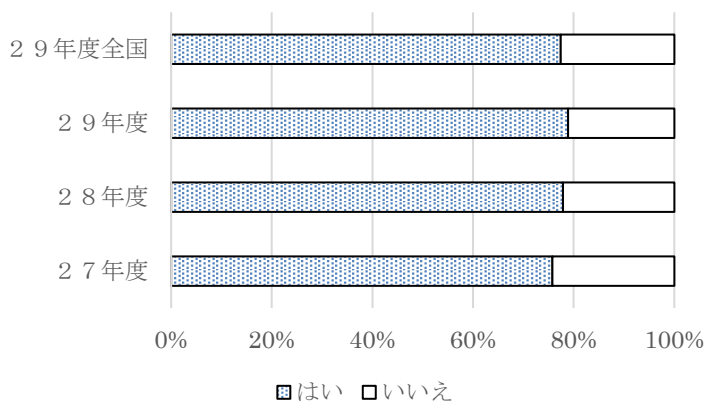
<取組みの成果があらわれていたり、特徴的であると思われる事項について>

友だちの前で発表する



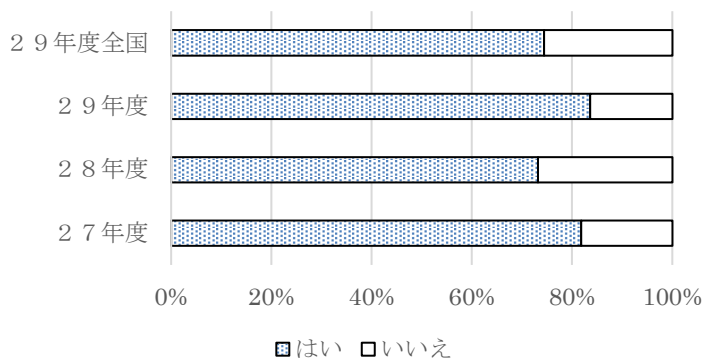
本校の児童は、発言を積極的にする子が一部に限られていたことを踏まえ、授業の中でグループ活動を多くし、発表の機会を増やしてきています。その成果が少しずつあらわれてきています。過去3年間を見ても増加の傾向にあります。それでもまだ半分近い児童が前での発表に抵抗があるようなので、継続して取り組んでいきます。

むずかしいことでも挑戦している



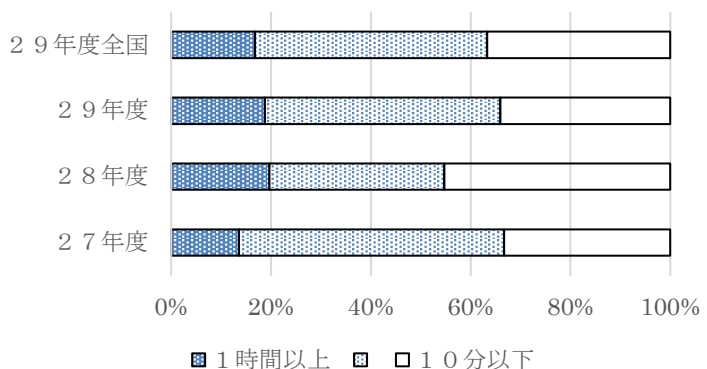
あきらめないで最後まで頑張る力が年々少しずつですが増加してきました。途中であきらめずに最後までやり遂げるよう、あとひとがんばりを学習や、行事等で呼びかけています。いろいろな経験や、活動を通して最後まで頑張り、達成感を味わうことで、次への自信と意欲につながります。がんばることをしっかり評価して次につなげていきます。

読書は好き



以前より本校の児童は「読書は好き」と答える子は多くいましたが、読書時間が多いとはいえませんでした。そこでもっと読書に興味を持てるようになる取組みを行っています。読書ノートを全クラスで行ったり、「多読賞」を設けたり、保護者や地域のボランティアの方に読み聞かせをしていただいたりしています。

読書時間



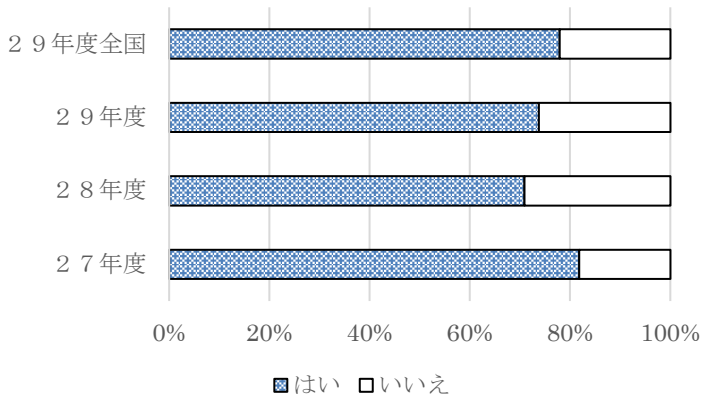
また司書とも連携して、授業の中にアニメーションやビブリオバトルなどを取り入れています。

少しずつですが、「全く読まない」児童が約18%と最近では初めて20%を切りました。また、2時間以上読書する児童はこの調査をしてから初めて10%を超えました。

少なくなったとはいえ、まだ「全く読まない」児童がいるので、これからも読書好きになる取組みを工夫し、継続して行っています。

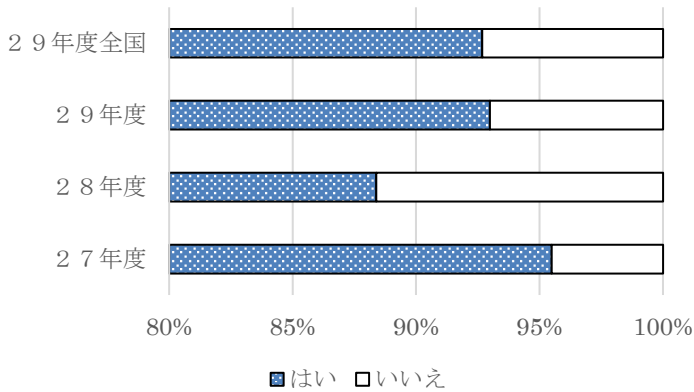
〈今後に向けて、課題と思われる事項について〉

自分にはいいところがある



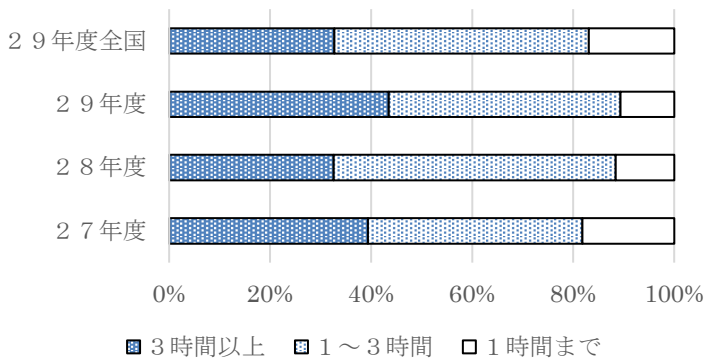
毎年の課題ではあるのですが、自己有用感、自尊感情の低い児童がいます。この数年間、友だちや先生から「ありがとう」の感謝の言葉をカードにしてもらうポカポカチャレンジ等の取組みを進めているところです。少し上向き傾向になってきましたが、今後、いろいろな活動を通して「できた」「がんばった」と思える場面を増やし、達成感を味わわせたいと思います。

人の役に立つ人間になりたい



「どちらかといえば」を含めて93%の児童が「はい」と答えましたが、積極的に「はい」と答える児童の割合は、今年度65%で少しずつ減ってきています。今年度は“ちょっと挑戦”というスローガンを設定し、だれかのために、何かのために、自分のために何ができるかということを考え、行動するように呼びかけています。そのような行動ができる場の設定をしていきます。

1日当たりテレビを見る時間



毎年40%前後の児童が一日平均3時間テレビを見ています。学校では“アウトメディアチャレンジ”というテレビやゲームの時間を短くする取組みを行っています。取組みの期間中は、児童は意識して頑張ることができています。

普段から、約束を守りテレビやゲームの時間を自己管理できるようにがんばらせたいです。

6. 保護者・児童のみなさんへ

児童のみなさんへ

- ・今年「ちょっと^{チャレンジ}挑戦」というスローガンをかかげました。何事にも興味をもってまずやってみようということです。興味を持てたら、次は目標と計画を立てて取り組んでみましょう。きっと新しい何かを見つけることと思います。
- ・「だれかのために」「なにかのために」「みんなのために」自分は何ができるか考えてみてください。それがボランティアの心です。ボランティアの心を養いましょう。
- ・たくさん本、いろいろな本に「ちょっと^{チャレンジ}挑戦」してみてください。本は心の栄養。読めば読むほど心がたくましくなります。

保護者のみなさんへ

- ・小学生のうちに生活習慣の確立を図ってください。全国的な課題ではあるのですが、スマホやゲームの時間、テレビの視聴時間が気になります。約束が必要だと思います。親子で話し合って約束を作ってください。
- ・お子さんとしっかりお話をしてください。学校のこと、友だちのこと、また親ご自身のことや経験をお話してください。話をすることで気づかなかったお子さんの一面も見えてくることと思います。
- ・家族の一員として、いろいろ仕事を任せてみてください。炊事・洗濯・掃除・妹や弟の世話など任せ、やりきらせることで、子どもの自信がふくらみ、自己有用感も育つことと思います。